

京阪奈三教育大学 連携推進事業の概要

平成26年3月2日

国立大学法人 大阪教育大学
理事・副学長 越 桐 國 雄

「学び続ける教員」のための教員養成・研修高度化事業 —京阪奈三教育大学連携による教員養成イノベーションの創生—

京阪奈三教育大学連携推進協議会の下に「教員養成高度化連携拠点」を共同設置することにより、中央教育審議会が提起する「教員養成の高度化と教職生活全体を通じた学びを継続的に支援するシステム」をリージョナル・レベルにおいてモデル構築する。

1. 高度専門職業人としての教員養成の高度化と質保証に向けた三つの課題に三大学が共同して取り組む。
2. 三大学の資源の相互活用を図るなど、連携のリージョナル化を行う。

京阪奈三教育大学連携推進協議会

教員養成・研修高度化事業推進部会

三大学連携拠点における事業・研究開発の連携・調整

教員養成高度化連携拠点

教職キャリア高度化センター

(「学び続ける」教員サポート事業)

- ・ 初任期支援部門
- ・ 教職キャリア支援部門 (京都教育大学)

教員養成高度化センター

(教員養成の高度化事業)

- ・ 大学院教育課程開発部門
- ・ 教育プログラム開発・評価部門 (大阪教育大学)

次世代教員養成センター

(ICT等を活用する次世代教員養成事業)

- ・ 情報教育部門
- ・ 課題探究教育部門 (奈良教育大学)

1. 「学び続ける教員」教員養成・研修高度化事業の三つの課題

- 「学び続ける教員」サポート
 - ・ 教育委員会や学校現場との連携による、修士レベル化に対応する研修プログラムの開発、ならびに現職教員のフォローアップとサポートの実施
- 教員養成の高度化
 - ・ 修士レベル化を拡大するモデルの構築と運用、博士課程の設置検討
 - ・ 外国語コミュニケーション力、教科教育開発力を持つ教員の養成
- ICT等を活用する次世代教員養成
 - ・ ICT活用や双方向遠隔授業を取り入れた教育方法及びモデルプログラムの共同開発と実施
 - ・ 「学び続ける教員」を育むための学校現場と連携した教員養成モデルの開発と、課題探究を推進する実践的指導力育成プログラムの実施

2. 連携のリージョナル化

- 相互の特色と強みを活かした教育・研究の活性化
 - ・ 三大学資源の相互活用
- ・ 学生支援・就職支援の連携実施
- 事務連携
 - ・ 事務電算システムの一括購入などによる大学管理的経費の節約

双方向遠隔授業システムの活用

目的

京阪奈三教育大学連携推進協議会の下に「教員養成高度化連携拠点」を共同設置することにより、中央教育審議会が提起する「教員養成の高度化と教職生活全体を通じた学びを継続的に支援するシステム」をリージョナル・レベルにおいてモデル構築する。

1. 高度専門職業人としての教員養成の高度化と質保証に向けた三つの課題に三大学が共同して取り組む
2. 三大学の資源の相互活用を図るなど連携のリージョナル化を行う。

連携推進事業の3つの課題

○ 教員養成の高度化

- ・修士レベル化を拡大するモデルの構築と運用、博士課程の設置検討
- ・外国語コミュニケーション力、教科教育開発力を持つ教員の養成

○ ICT等を活用する次世代教員養成

- ・ICT活用や双方向遠隔授業を取り入れた教育方法及びモデルプログラムの共同開発と実施
- ・「学び続ける教員」を育むための学校現場と連携した教員養成モデルの開発と、課題探求を推進する実践的指導力育成プログラムの実施

○ 「学び続ける教員」サポート

- ・教育委員会や学校現場との連携による、修士レベル化に対応する研修プログラムの開発、ならびに現職教員のフォローアップとサポートの実施

連携のリージョナル化

- 相互の強みと特色を活かした教育・研究の活性化
 - 三大学資源の相互活用
 - ・・・ 双方向遠隔授業システム
 - 学生支援・就職支援の連携実施
- 事務連携
 - 事務システムの一括購入等による管理的経費の節約

教員養成・研修高度化連携拠点

- 「学び続ける教員」サポート
 - 【京都教育大学 教職キャリア高度化センター】
- 教員養成の高度化
 - 【大阪教育大学 教員養成高度化センター】
- ICT等を活用する次世代教員養成
 - 【奈良教育大学 次世代教員養成センター】

教員養成・研修高度化連携拠点

教職キャリア高度化センター
京都教育大学

○修士レベル対応学修プログラムの共同開発
【京都教育大学】

教員養成高度化センター
大阪教育大学

○博士人材向け教員能力開発プログラムの共同実施
○博士養成モデルプログラムの共同開発
【大阪教育大学】

○ICT支援員養成・ICT活用サポート研修の共同実施
○スクールサポーター等 教育支援人材認証制度の共有
○双方向遠隔授業を取り入れた教育課程の連携
【奈良教育大学】

次世代教員養成センター
奈良教育大学

相互の特色と強みを活かした教育・研究と業務運営の活性化
・資源の相互活用 ・学生支援、就職支援の連携実施 ・事務連携による管理的経費の節約

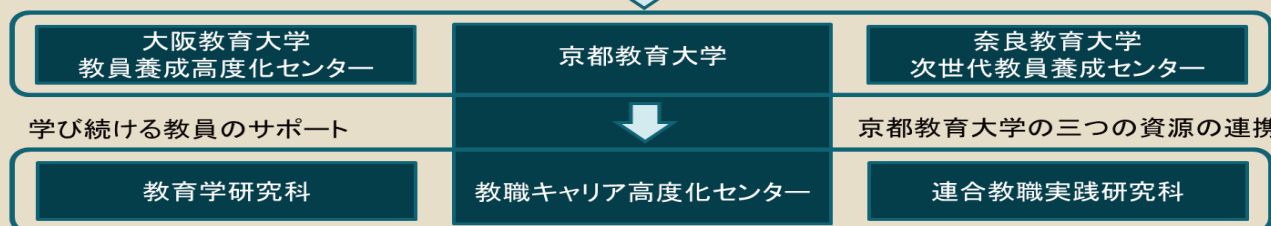
京都教育大学 教職キャリア高度化センターの現状と課題

平成27年3月2日
京都教育大学附属教育実践センター機構長・
教職キャリア高度化センター長
水山光春

京都教育大学教職キャリア高度化センターのミッション

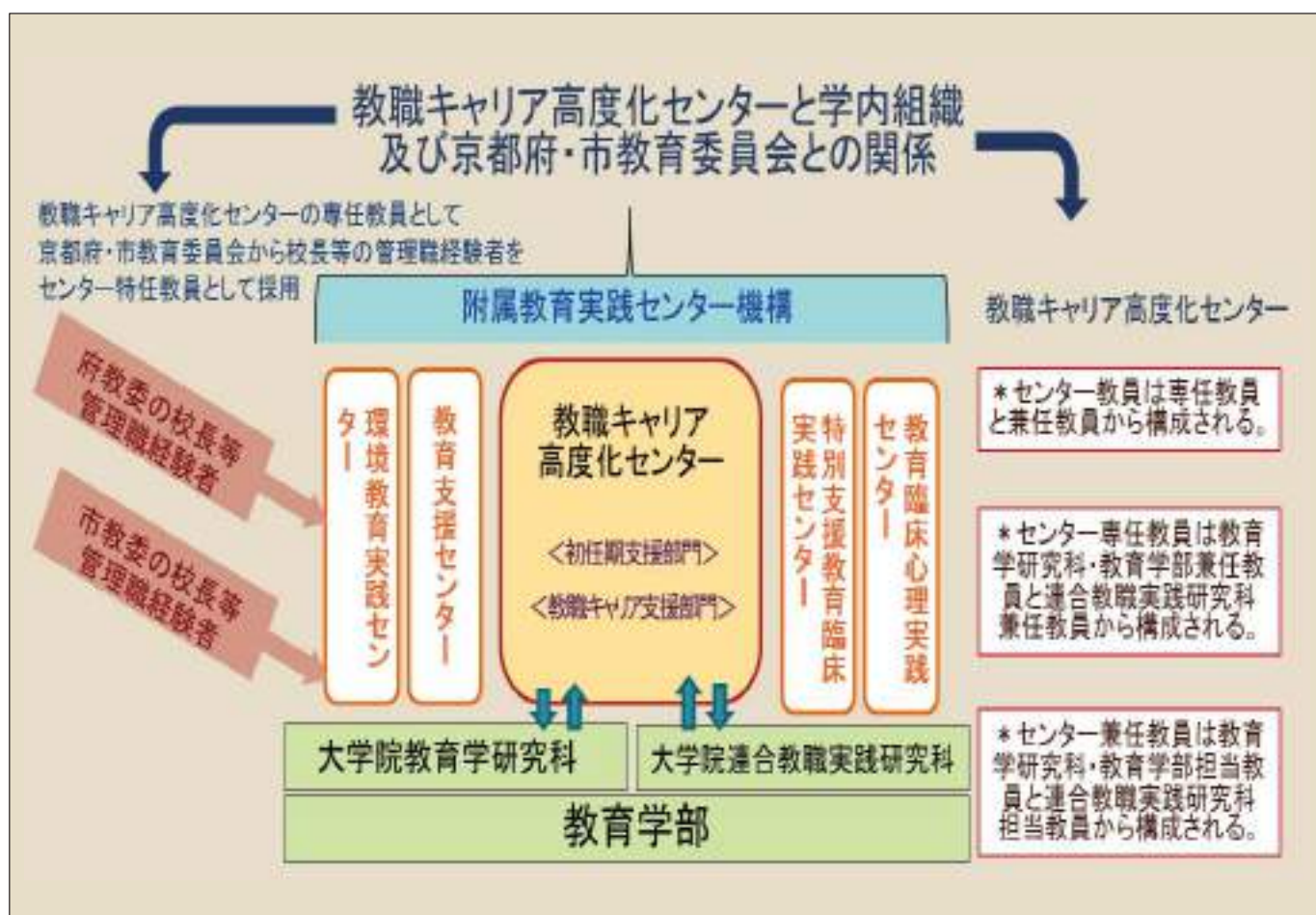
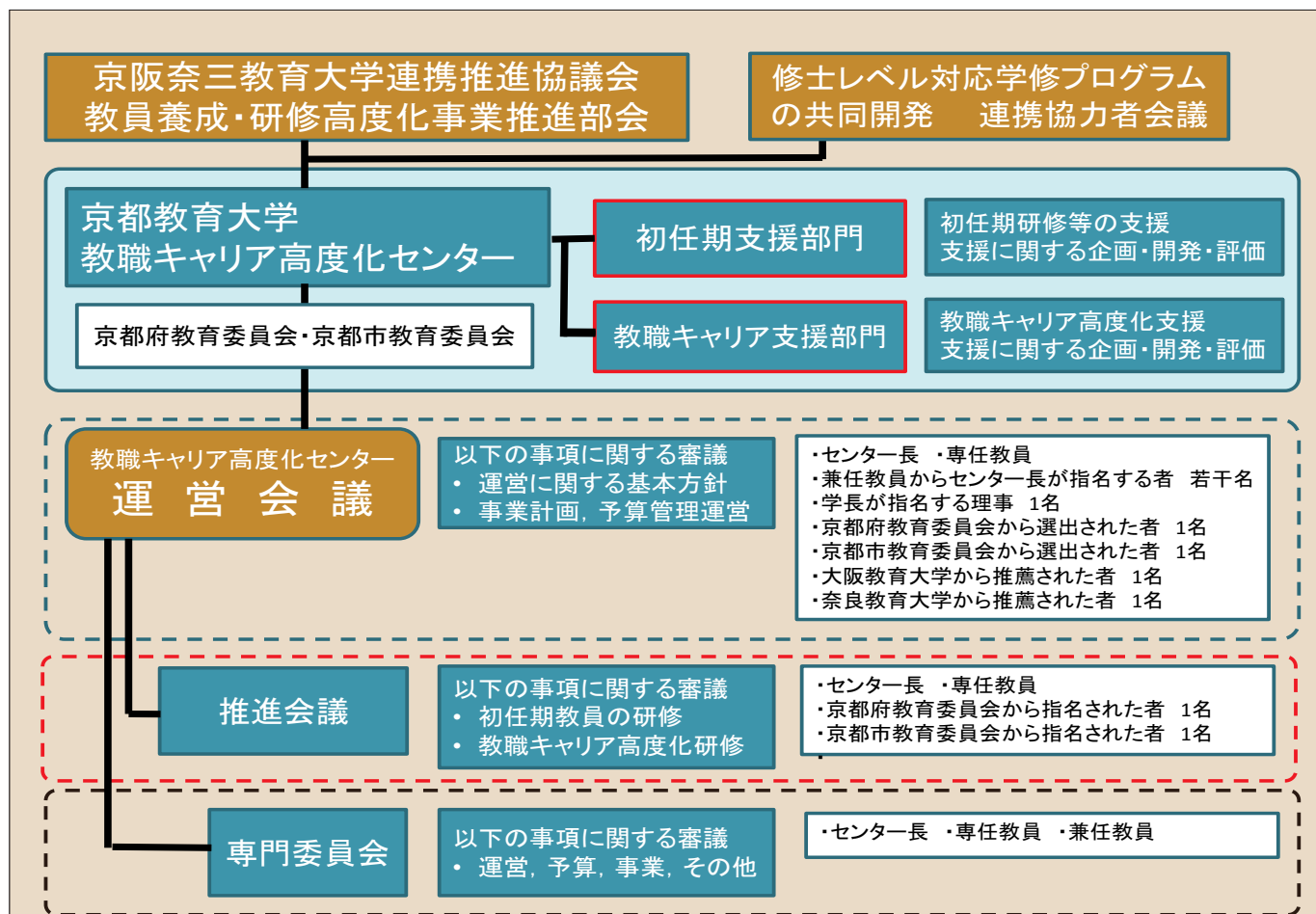
教職生活を通して「**学び続ける教員のサポート**」

三教育大学連携



21世紀の社会の変化、教育課題への対応

- センターは、京都府教育委員会・京都市教育委員会及び公立学校との協働により、大学の人的資源と学術的成果を活用して、義務教育諸学校等教員の初任期から教職キャリアを積む過程全体の支援並びに支援に関する研究開発を行い、**その方法と成果を大阪教育大学及び奈良教育大学と共有して、教員養成・研修の高度化を推進する。**(京都教育大学教職キャリア高度化センター規程 第2条)



教職キャリア高度化センターの事業

1. 初任期教員対象…研修等の支援
 - 「京のせんせいポートフォリオ」システム
2. 全教員対象…教職キャリア高度化の支援
 - 「先生を“究める”Web講義動画」システム
 - 現職教員のための「学校経営改善講座」
 - 現職教員のための「特別支援教育講座」
3. 卒業生・修了生対象…フォローアップ
 - 卒業生・修了生とつながるwebシステム

1. 初任期支援「京のせんせいポートフォリオ」システム

目的

学び続ける教員をサポートするシステム

初任期教員対象(1～3年目)

機能

資質向上に役立てる

- ① 自己の成長の記録として活用
実践資料の蓄積(目標設定・自己評価)
実践の振り返り、実践の整理
- ② 大学教員から実践へのコメント
年に2回大学に実践を提出
(本年度は1回 12月末予定)
実践の価値付け
- ③ 知りたい・得たい教育情報の交流(公開部分)
日常はWebで 年に2回は交流会
実践の学び合い

平成26年度
募集対象

小学校:50名 中学校(国・社・体):25名
高等学校(数・理・英):25名

現在103名

資質向上に役立つ

3 交流会の充実

学び合い

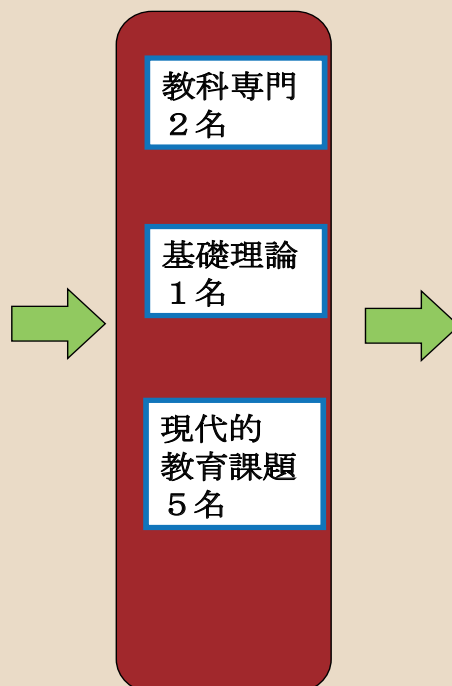
3月第4土曜日
「講演会・分科会」

※一本あたり10分～20分

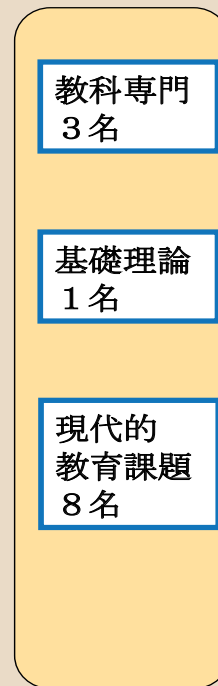
「Web動画」配信のこれまでとこれから

担当教員 (専門分野)	講義テーマ
内田 利広 教授 (臨床心理学)	不登校児童生徒への 担任の関わり
村上 登司文 教授 (教育社会学)	平和と教育
相澤 伸幸 准教授 (教育哲学)	高校生とともに 〈勉強・学習〉について 考える
伊藤 崇達 准教授 (学習心理学)	学習における動機づけの 理論と実践
榊原 禎宏 教授 (公教育経営学)	学校経営の議論の作法
相澤 雅文 教授 (特別支援教育)	「気になる」児童生徒の 理解と対応
桶谷 守 教授 (教師教育)	最近のいじめ問題を どう考えるか

平成25年度 (7名19本)



平成26年度



平成27年度

2. 教職キャリア高度化支援(2) 修士レベル対応学修プログラム

- 日々の授業や日常業務を遂行しながら、現代的な教育課題(学校経営・特別支援教育等)に関する理論が学べるプログラムを京都府・市教育委員会と協働開発。

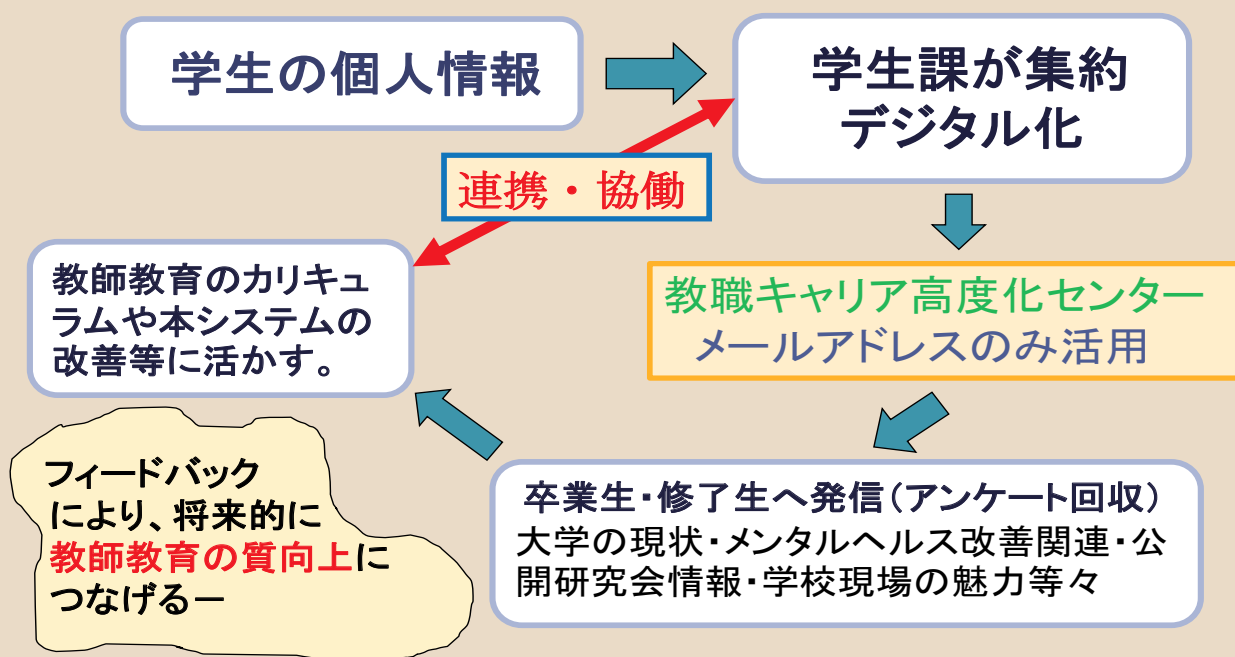
－ 学校経営改善に関する講座(平成26年度)

京都府総合教育センターとの連携	京都市総合教育センターとの連携
学校組織運営特別講座シリーズ 学校組織マネジメント特別講座シリーズ 学校業務改善講座(小中学校)シリーズ 組織の活性化・チームづくり講座	学校経営力向上講座 ミドルリーダー育成講座

－ 特別支援教育に関わる講座(平成25～27年度)

- ・ 教員養成段階におけるプログラム開発
- ・ 現職教職員に対する研修プログラムの開発

3. 卒業生・修了生フォローアップ システムの流れ(平成26年度は試行)



教職キャリア高度化センターの今後の課題



- 三大学連携実質化の検討
 - － 大阪教育大学・奈良教育大学へのシステムの提供
 - － 単位互換, 教員の相互派遣等システムの運用面での連携検討
- 事業個々のプログラムの充実
 - － 「京のせんせいポートフォリオ」
 - ・ 登録者の拡大(100→200)
 - ・ ポートフォリオ内容の充実(学習指導案→学習指導全般)
 - － 「先生を“究める”Web講義動画」
 - ・ 提供番組の拡大(25→50→100)
 - ・ 提供番組のメンテナンスとブラッシュアップ
 - － 「卒業生・修了生フォローアップ」
 - ・ 「学生課」「教務・入試課」「同窓会」との調整とシステムの確立
- 京都府・市教育委員会との連携強化
 - － 既存プログラムの評価と新しいプログラム開発
- 本学教育支援センターとの統合
 - － 入学から教職キャリア形成までの一貫した支援体制の構築

拠点センターを中心とする 三教育大学連携の現状と成果

教員養成高度化センター

大阪教育大学教員養成高度化センター長
理事・副学長 越 桐 國 雄

平成27年3月2日
第2回京阪奈三教育大学連携推進フォーラム

国立大学法人 大阪教育大学

教員養成高度化センターの 主な取組み

- 新しい学力観に則った「人材育成アセスメント」
方法の開拓
- 初任期教員育成支援プログラムの開発
- 大学・教育委員会連携によるスクールリーダー育成
支援
- 博士人材向け教員能力開発プログラムの研究開発
- 大学院教育課程開発のためのシステム開発

<http://osaka-kyoiku.ac.jp/kaikakukyoushou/renkei/top.html>

国立大学法人 大阪教育大学

博士人材向け教員能力開発 プログラムの研究開発

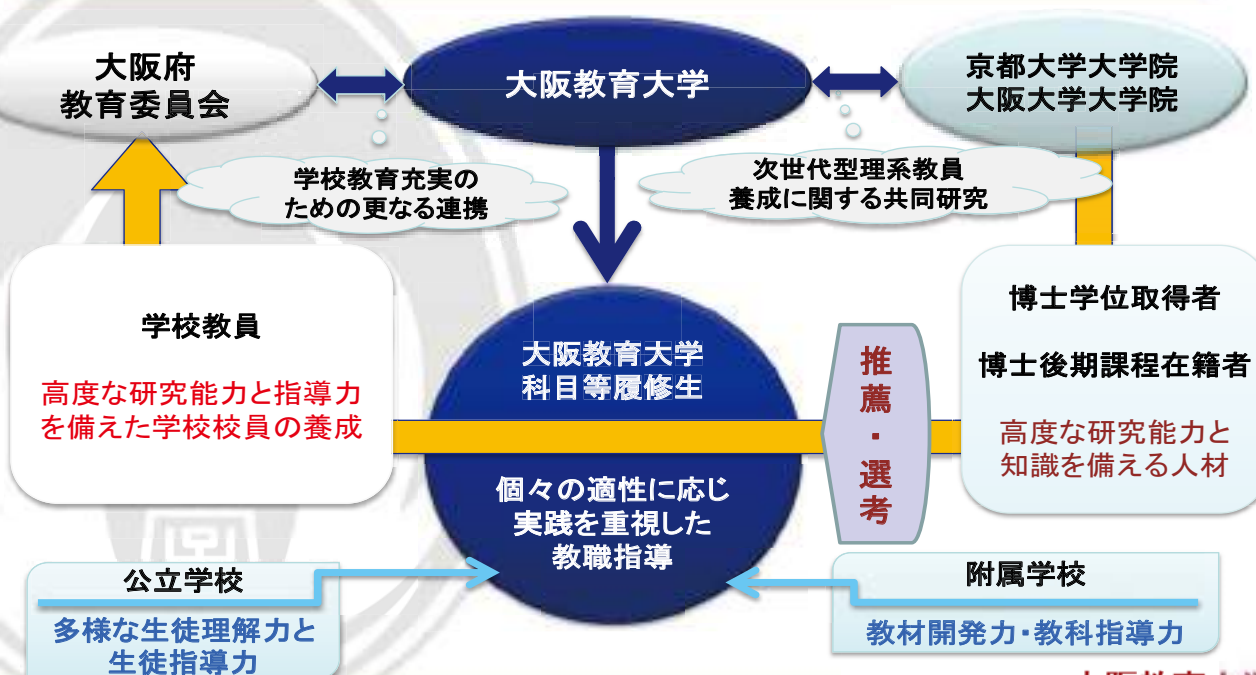
学校教育に関心がある博士学位取得者を対象に、教育大学・教育委員会・研究重点大学院が連携して、教職者としての資質能力と実践力を育成する。

→大阪教育大学が進めてきた「高度理系教員養成プログラム」を京阪奈三大学で協働

国立大学法人 大阪教育大学

高度理系教員養成プログラムの概要

実施体制 教育大学・教育委員会・研究重点大学院の連携による実施



国立大学法人 大阪教育大学

研究重点大学院との連携経過

- ・平成21年 京都大学大学院理学研究科と協定締結
→平成22年度より受講生受入れ開始
- ・平成22年 大阪大学大学院理学研究科と協定締結
(平成27年より大阪大学との連携協定に変更予定)
→平成23年度より受講生受入れ開始
- ・平成27年 奈良先端科学技術大学院大学と協定締結
(予定)

国立大学法人 大阪教育大学

プログラムの主な内容

- 教職ゼミナール** ⇒ 本学教授、大阪府教育委員会幹部、
附属高校副校長等が担当
- 教科教育ゼミナール** ⇒ 本学教科教育担当教員や附属学校の
理科教員が担当
- 学校インターンシップ** ⇒ 大阪府立の進学特色校等で実施
- 優れた授業実践の見学** ⇒ 大阪府立清水谷高校：化学の授業
四天王寺高等学校：物理の授業
- 国内研修** ⇒ 横浜サイエンスフロンティア高校
- 海外研修** ⇒ SSHアメリカやタイでの生徒研修サ
ポータ役とともに先進的科学教育の
研究調査活動を実施



このほか、SSH活動支援を通じて
課題研究やプレゼンテーション指導
力の育成などを行っている。

国立大学法人 大阪教育大学

受講者・修了者とのネットワーク化のために

1. manaba folio の機能



manaba folio(マナバ フォリオ)には、2つの機能があります。

マイポートフォリオ



マイポートフォリオは一人ひとりに提供されるデータ置き場です。ポートフォリオに貯める一つ一つのファイルをコレクションと呼びます。

マイコース



マイコースは授業・講義単位のコミュニティです。レポートの提出、掲示板で教員へ質問、教材の閲覧などができます。

その他便利機能

【検索】 検索機能を使えば、入力したキーワードで manaba folio 内の関連ページを検索することができます。

【メモ】 掲示板やコレクションなどいろいろなところに「メモ」というボタンがあります。クリックすると、自分だけが見ることのできるメモを書き込むことができます。



機能

レポート

評価

掲示板

ポートフォリオ

マイコレクション

マネジメント

コミュニティ

国立大学法人 大阪教育大学

教員採用テストにおける特別選考枠

(平成27年度大阪府公立学校教員採用選考テスト受験案内抜粋)

【理科教育推進の選考】

(1) 年齢要件 昭和39年4月2日以降に出生していること。

(2) 資格要件

次の①又は②のいずれかを満たしていること。

① 略

② **高度専門型理系教育指導者養成プログラム** 又は大阪府理数系教員 (コア・サイエンス・ティーチャー) 養成拠点構築プログラム (学生向けプログラム) を平成27年3月31日までに修了 (見込みを含む。) し、修了証を取得 (予定) していること。

国立大学法人 大阪教育大学

プログラム修了者の教員就職実績

一期生	大阪教育大学附属高等学校	理科教員
	大阪府立高等学校	理科教員
二期生	大阪府立高等学校	理科教員
	神戸市立高等学校	理科教員
	立命館中・高等学校	理科教員
三期生	群馬県立高等学校	理科教員
	開智日本橋中学校・高等学校	理科教員
四期生	大阪府立高等学校	理科教員
五期生	大阪府立高等学校	数学教員

他：分子科学研究所

国立大学法人 大阪教育大学

三教育大学連携関係

■平成26年3月4日

教員養成高度化センター運営会議で博士人材向け教員能力開発プログラムの概要を説明

■平成26年10月23日

教員養成高度化センター運営会議に博士人材向け教員能力開発プログラムチーム発足

大阪教育大学 片 桐 昌 直 氏

京都教育大学 谷 口 和 成 氏

奈良教育大学 常 田 琢 氏

■平成26年12月3日

プログラム受講希望者面接に奈良教育大学が参画

国立大学法人 大阪教育大学

今後の予定

研究重点大学院との連携拡大

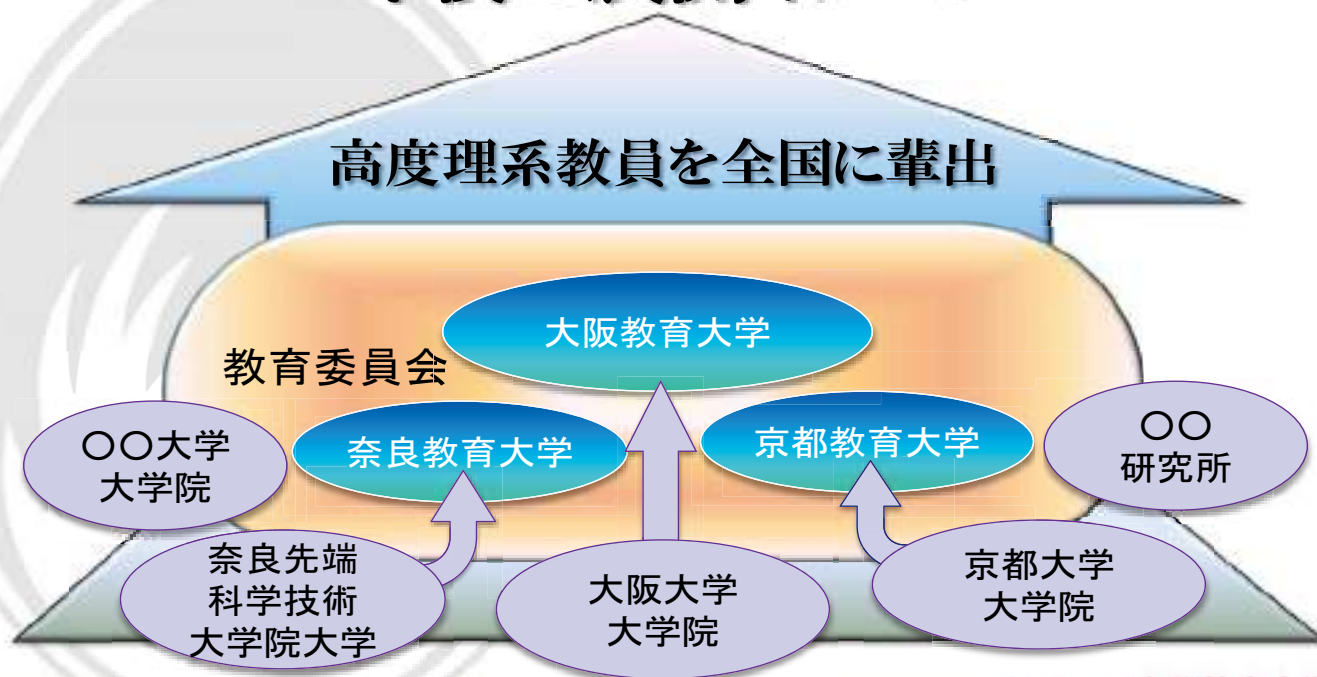
- ・ 奈良先端科学技術大学院大学と協定締結
- ・ 大阪大学理学研究科から大阪大学との協定へ（京都大学とも大学間協定への拡大協議）
- ・ 理化学研究所キャリアセンター訪問 など

三教育大学の更なる連携推進

- ・ 現在のプログラムへの協力
- ・ 新たなプログラムの開発・実施
⇒教科実践対応、コミュニケーション力育成等への対応
- ・ 京教大や奈教大での対面或いは遠隔セミナーの実施 など

国立大学法人 大阪教育大学

三教育大学連携による 今後の展開イメージ



国立大学法人 大阪教育大学

修士レベル化の発展型としての 博士養成モデルプログラムの開発

平成26年3月：大阪教育大学が進める「大学院教育課程開発のためのシステム開発」の概要を説明

同年8月：前記プロジェクトの一環をなす本プログラムを京阪奈三教育大学が連携して進めることを確認。

・・・概要は次のスライド参照

同年9月：教員養成高度化センター共同研究員として二大学から各1名の教員を選出。その後、三大学共同先進事例視察の実施と視察先＝イギリスを決定。

同年10月：三大学関係者が今後の進め方について意見交換を行うとともに、海外先進事例調査の詳細を確認。

同年11月：イギリス視察

国立大学法人 大阪教育大学

大学院教育課程開発のためのシステム開発

教員養成の高度化
「博士課程」
「教職大学院」

「自ら学び続ける教員の
成長支援システム」の構築

教職学修手帳

教職課程における
自らの学びを計画し、記録するための
システム手帳の開発と活用

教育実践
デジタルライブラリー

- ・附属学校園との協働
- ・録画作業
- ・録画データの編集及び利用準備
- ・授業方法の開発
- ・公開研究会
- ・現職教員研修

教員養成を担う人材養成の
ための博士課程開発

- ・教師教育に特化した博士課程
- ・教職大学院、修士課程との連続性
- ・学校教育実践を中核に
- ・EdUとして
- ・大阪教育大学のミッション具現化

学生プロジェクトチーム（学部生＋院生）

主体的な学びの支援体制づくり

京阪奈三教育大学連携事業

修士課程と専門職学位課程
（教職大学院）の有機的な連携により、修士レベルの教員養成だけでなく、教職大学院の指導者養成も視野に入れた新しい教職大学院の教育課程を研究開発する。

- ・新しい教職大学院のカリキュラムの研究開発と実施
- ・修士レベル化に対応する教科教育学及び新しい「教科学」の創成のための研究開発
- ・修士レベル化の発展型としての博士養成のモデルプログラム開発

高度専門職業人として
自らの職能成長に
コミットする教師の育成

- ・学内の「教科教育」組織や附属学校園との協働
- ・教育委員会との協働
- ・現職教員対象研修（講習）とのタイアップ
- ・大学、大学院授業との有機的な連結
- ・国内外の先進事例調査研究

国立大学法人 大阪教育大学

海外先進事例調査（イギリス）

平成26年11月に三大学共同でイギリス先進事例調査を実施。

視察先は、教育分野の博士課程を有する2大学と teaching school として教員養成課程の認定を受けている小・中学校

- University of London, Institute of Education
- University of Oxford, Department of Education
- Henry Fawcett Primary School
- Chestnut Grove Academy

国立大学法人 大阪教育大学

イギリスの教育分野における 博士課程の現状 視察教員コメント 1/3

【Ph. D と Ed. D】

- 博士号の取得は日本に比べて難しく、質保証制度が整っている。
- Ph. D とEd. Dの違いは明確ではない。
- 実践的と思われるEd. Dでも経験主義の実践重視でなく、アクションリサーチなどの研究がベースになっている。
- Ed. Dでも実習はなく、働きながら学ぶことで理論と実践をつないでいる。
- 実践志向だが、リサーチを通して自身の実践を自ら検証し、理論と実践をつなぐことで実践能力を高めている。

国立大学法人 大阪教育大学

イギリスの教育分野における 博士課程の現状

視察教員コメント 2/3

【デマンドサイドの視点から】

- ・ 学校教員もリサーチスキルを学ぶ必要があり、リサーチを通して教育実践を変えていく。
- ・ 卒業後の道筋がはっきりしており、博士号取得の価値が明確になっている。
- ・ ドクターを持っている学校教員は求められていない。
- ・ 博士号をとることの社会的意義が認識されており、学校教育だけでなく、他分野を含めた広い意味で教育をとらえている。

国立大学法人 大阪教育大学

イギリスの教育分野における 博士課程の現状

視察教員コメント 3/3

【高等教育の視点から】

- ・ 高等教育で教えることの価値が認識されており、教授法が大事にされている。
- ・ 高等教育の教授法を教える大学院教育は、日本にない空白領域であり、大学や教育の持つ意味を変える可能性がある。

国立大学法人 大阪教育大学

「教育大学における博士課程」 に関する一考察（１）

- ・ 教職大学院の上に一定の連続性を持たせ、実践的・実証的研究を行うEd. Dとして設置し、一部を教職大学院専任教員が兼任する。
- ・ 教職大学院修了者を中心に、教育行政職や大学教員等を主な対象とし、高度専門職業人（学校教員）養成を行う教職大学院や修士課程とは対象を区分する。
- ・ カリキュラムの充実や人材確保の点で連合博士課程が想定される。

国立大学法人 大阪教育大学

「教育大学における博士課程」 に関する一考察（２）

- ・ カリキュラムは、教育分野の専門科目に加え、研究基盤を固めるために必要な「教育研究方法」、大学教員として求められる「大学教育教授法」や、その実習としての「大学授業のアシスタント実習」、国際的な活動で重要な「英語論文の作成指導」など、これまでにない科目設定も考えられる。
- ・ これらの科目は、英語での授業、留学、国内・外からの遠隔授業、オンライン指導など多様な授業形態を取り入れることが考えられる。

国立大学法人 大阪教育大学